



【特集】

技

環境に配慮し、カバー工法によって屋根をリフォーム ～建築廃材を出さないように工夫～

●屋根材の破損を発見

朝日町のJR泊駅近くの商店街で化粧品店を営んでいるY様。店舗から五十mほど離れたところにある自宅は築二十四年ほどの洋風建築で、玄関横の大きなガラス窓と上部のテラスが目を引き。店舗と自宅のある通りは藩政時代、入善舟見・愛本方面からの北陸道の街道筋にあたり、古い家々が点在していることから、Y邸のお洒落な佇まいがより印象的だ。

住まいのリフォームは、正方形の大屋根と小屋根の屋根葺き、軒裏の張り替え、雨樋の取り替え。当初、軒裏のベニヤ材が破損したため、通気性のある有孔ベニヤに張り替えるだけの修繕だったが、施工担当者が屋根が上がってみると、屋根材のカラーベストがベコベコになり、破



▲(上)グリーンの色合いが落ち着いた雰囲気を醸し出す大屋根。
▲(下)軒裏や天井裏の換気に有効な有孔ベニヤを使用。



▲真新しい雨樋も目を引く。

損箇所も見られたことから、屋根を葺くことになった。

「軒裏が剥がれてきて外見も見苦しくなってきたので、修繕をお願いしました。そこで初めて屋根材の破損がわかったんです」とご主人。

屋根の表面には砂が堆積し、ザラザラとした状態で、植物の芽が出ているところもあつた。屋根の破損は内部への雨漏りにつながり、放っておくと被害が拡大する。早めの発見がよかつたとご主人も安心の様子だ。

●断熱性、防音性もアップ

工法は、既存の屋根材を解体せず、その上に新しい屋根材を葺く「カバー工法」を採用した。屋根本体にかかる重量に配慮して、軽くてサビにくく、耐火性にも優れたガルバリウム鋼板を屋根材に使用したことが大きな特徴だ。カラーはグリーン系を採用。これまでと同

様の落ち着いた色合いで、デザインも大きく変わらない。屋根材が新旧・二重になることで、断熱効果や防音効果のアップも期待できる。

「かつての大量消費、スクラップ&ビルドの時代は去りました。なるべく建築廃材やゴミを出さず、地球環境にも優しい工法ということ、これまでの屋根材を残したままのカバー工法を採用しました」と施工担当者は屋根を見上げる。

当初は、傷んだ屋根材を剥がし、瓦で葺き替えることも検討されたが、Y邸の屋根の勾配がゆるやかで、瓦葺きにすると瓦と瓦のジョイント部分から雨風の入るおそれもあることから、ガルバリウム鋼板で屋根を被った。瓦屋根の葺き替えよりも格段に安価で仕上がるという面もこの工法の大きな魅力という。

●梅雨に備えて

施工面の難しさとしては、下地となる既存の屋根材のおごりを調整してか



▲商店街の一角に建つY邸。

ら新しい屋根を葺かなければならなかつたことが挙げられる。また、足場が組まれたが、店舗や住宅が建ち並ぶ、隣家離隔のない場所だけに苦勞もあつたようだ。

「波打つ屋根に砂や杉の葉も溜まり、傷みも激しかった。梅雨前に無事工事を終えることができてよかつたですね」と施工担当者は目を細める。

建築廃材を出さないように、カバー工法を採用するなどの技が見られた今回の事例。環境に配慮したリフォームの工法が広がっていくことに期待したい。

今月のオーナー訪問



富山県朝日町 Y様

雨漏り寸前に改修

大屋根、小屋根の表面がバタバタで破損箇所もあり、雨漏り寸前でした。早く発見できたことが幸いでしたね。カバー工法による二重の屋根によって、夏の暑さや冬の寒さもこれまでもよりも和らぐのではないのでしょうか。施工費用も安くあがり、よかつたと思います。

数年前、二帯の下水道整備の折にトイレを改築したのですが、そのご縁で同じ建設会社に屋根の施工をお願いしました。手際のない仕事ぶりに満足しています。



技のリフォーム

0120-183-304

イワサ ミセマス